市立堺病院と市民の健康をつなぐ広報誌

ぞうさん広場

SAKAI 市立堺病院

2014年秋 リニューアル 創刊号

新病院開院NEWS

ドクター・インタビュー

市立堺病院脳神経外科の最新医療

登録医の先生紹介

地域がん診療連携拠点病院に指定されました

市立堺病院で産まれた赤ちゃん大集合!

ぞうさん広場　平成26年9月1日発行　リニューアル創刊号　●発行所　市立堺病院　〒590-0064 大阪府堺市堺区南安井町１丁１番１号　TEL 072-221-1700

詩織(しおり)ちゃん
平成26年3月24日生まれ
パパとママより
かわいい女の子に育ってね

希衣(きい)ちゃん
平成26年3月20日生まれ
パパとママより
元気にすくすく育ってね

市立堺病院でたくさんの赤ちゃんが産まれています!

爽汰(そうた)くん
平成26年3月23日生まれ
パパとママより
パパとママは爽汰が大好きだよ元気になった爽汰の帰りをみんな待ってるよ

雷壱(らいち)くん
平成26年3月14日生まれ
パパとママより
生まれてきてくれてありがとう

知っておきたい! 医療用語

このコーナーでは、「よく耳にするけど意味が解らない」という医療用語について、ご紹介します。病院を受診する際の参考にしていただければ幸いです。

■ 低侵襲治療

身体を傷つける範囲をなるべく小さくして、出来る限り身体に対する負担を減らした治療。その分回復も早くなります。

■ 脳動脈瘤

脳の血管の一部が膨らんだもので脳血管の分岐部に発生します。破裂しない限り原則として無症状ですが破裂することでクモ膜下出血の最大の原因となっています。

■ コイル塞栓術

カテーテルを通して極めて細いコイルを脳動脈瘤の中に詰め、脳動脈瘤内に血液が流れ込むのを遮断することで破裂を予防します。動脈瘤の入り口が狭い場合に適しています。

■ カテーテル

中が空洞になっている柔らかい管。カテーテルを通じて、血管内拡張用のステント・バルーンや閉塞用のコイルを送り込み治療を行います。

SAKAI 市立堺病院
〒590-0064 大阪府堺市堺区南安井町１丁１番１号　TEL 072-221-1700
http://www.sakai-city-hospital.jp

新たな夢に向かって飛躍する市立堺病院

～広報誌「ぞうさん広場」のリニューアルによせて～

堺市立病院機構　理事長
北村 惣一郎

市立堺病院は、創立91周年を迎えるとともに、当機構による運営に移行してから早くも3年目を迎えました。近年は病院スタッフの頑張りだけでなく、地域の先生方のご協力もいただいて、良好な経営状態を維持し続けることができており、これまでのご支援に厚く御礼申し上げます。

こうした中で、来年7月には堺市初となる救命救急センターを備えた「堺市立総合医療センター」を開院し、同時に整備される「堺市こども急病診療センター」や「堺市救急ワークステーション」と連携した地域の医療拠点機能を担ってまいります。この大きな転換点を迎えるに当たり、市民の皆さまや地域の医療機関の先生方との対話をさらに増やすことが大切であると考えており、この広報誌がその橋渡しの一助となればと考えております。

これからも一層「地域の皆さまから選ばれ、信頼され続ける病院」をめざし、成長してまいりたいと考えておりますので、変わらずご支援、ご協力をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

市立堺病院　院長
金万 和志

当院は大正12年の創立以来、地域の皆さまに支えられるとともに、数々の医療者たちの奮闘により、今日まで医療提供を続けて来ることができました。こうした中で今年の8月には、国の「地域がん連携拠点病院」に指定されるなど、これまで絶え間なく続けて来た努力が結実しつつあると感じております。

当院のスタッフたちは、その強みであるがんをはじめとした高度・専門医療だけでなく、救命救急センターの開設を視野に入れた救急医療にも、日々情熱を持って取り組んでおります。また、医師や看護師をはじめすべての医療スタッフが患者さんを中心とした治療に取り組むチーム医療を、あらゆる診療領域で展開し、来るべき新病院に向けて着実に歩みを進めております。

こうした最新情報を「ぞうさん広場」を通じて、市民の皆さま、地域の医療機関の先生方へお届けしてまいります。今後とも当院の取り組みをご理解いただき、ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

平成27年7月、新病院開院（予定）

高度な三次救急医療に対応する救命救急センターを備えた「（仮称）堺市立総合医療センター」が、堺市西区に開院します。

外観イメージ

病室（4床室）

外来待合イメージ

病院名	（仮称）堺市立総合医療センター	付随施設	コンビニ、レストラン
病床数	487床 ・一般病床450床	建設予定地	堺市西区家原寺町1丁
	・救命救急センター病床30床	敷地面積	19,693.47㎡
	・感染症病床7床	建築面積	8,410.81㎡
診療科	27科（心臓血管外科が新設）	延床面積	44,533.29㎡（地上9階・地下1階）

市立堺病院の歴史が新たなページへ

市立堺病院は、1923年（大正12年）7月に現在の病院から程近い宿院町の顕本寺境内に「堺市立公民病院」として創設されました。その後大きな災害や戦火を乗り越え、また社会情勢の変化や保健医療制度の変遷に対応し、91年の永い歴史を刻んできました。現在の市立堺病院は、一般480床、感染症13床の病床数と26の診療科を有する堺市域における中核病院として、救急医療やがんをはじめとした高度専門医療など幅広い診療領域をカバーしています。

しかし堺市医療圏は、大阪府内で唯一高度な三次救急医療を担う施設がなく、特に重症・重篤な救急患者は、市外の救命救急センターまで搬送するか、早期搬送を優先して市内の二次救急医療機関で受け入れるしかありませんでした。こうした状況に対応するため、市立堺病院を新築移転し、三次救急にも対応した新たな「堺市立総合医療センター」として整備する計画が進められてきました。

（仮称）堺市立総合医療センター概要

堺市内で初めてとなる救命救急センター

新病院には、複数の診療科にわたるような重篤な救急患者にも対応できる、救急専用の手術室や集中治療室を備えた救命救急センターが整備されます。それに伴い、これまで多くの救急搬送を受け入れてきた当院の救急医療をさらに強化するため、緊急手術に対応した外科系救急医の確保や、重篤な患者さんを24時間見守る看護体制などの充実を行います。

また救急隊と連携して、医療機器を搭載し医師・看護師とともに現場へ急行する「ドクターカー」の運用を拡大するとともに、新病院屋上にドクターヘリの離発着が可能なヘリポートを設置し、重症患者の受入れなど広域搬送を可能にし、命の危険に瀕した患者さんへ一刻も早く救命医療を提供できる体制づくりを行います。

現病院の強みである高度・専門医療を強化

現在の市立堺病院は、大阪府のがん拠点病院であるだけでなく、循環器系疾患の多くを受け入れるなど、幅広い専門領域における医療提供を行っています。新病院ではこれらに加え、心臓血管外科を新設するとともに、血管内治療と外科的手術の両方を行なえる「ハイブリッド手術室」を整備し、重症心疾患などにも対応できるより高度な専門医療を提供します。また放射線治療機器「リニアック」や腫瘍診断に効果を発揮する「スペクトCT」をはじめとした最新の医療機器を導入し、先進的な治療に取り組みます。

大阪府ドクターヘリ

ドクターカー

ハイブリッド手術室

放射線治療装置リニアック

地域の急性期医療を担う安心快適な新病院

新たに整備する救命救急センターと、強化充実する高度・専門医療が相互に協力しながら治療をつなげていく急性期医療体制を構築し、多くの重症・重篤な患者さんが容体の安定とともに快適な療養環境の中で治療やリハビリに専念できる病院づくりを進めます。このため新病院では、採光に優れた病室配置を行うとともに、レストランやコンビニ、カフェなどのアメニティ施設を整備し、治療する人や訪れる人がくつろげるような空間づくりにも努めます。

災害時や感染症などの際の医療拠点としても

新病院は免震構造を採用するとともに、高い能力の自家発電設備などを備え、大規模災害時にも継続して医療が提供できる災害拠点病院として機能します。また感染症指定医療機関としても、7室の感染症病棟に加え、これに直通する専用エレベーターと診察室を整備し、新型インフルエンザの流行時にも地域の医療を支える機能を有しています。

内視鏡手術

東日本大震災での救援活動

象さん親子もお引越し

市立堺病院の移転に際して市民の方から「どうなるの？」と心配されていたのが、病院の広場にある象の親子のモニュメント「どろんこ坊や」です。高さ3.2メートルのお母さん象が80センチの小象に優しく水をかける姿を、銅板でリアルに愛らしく表現しており、1996年（平成8年）の開院時に設置されて以来病院に来る子供たちに大人気で、市立堺病院のシンボルとなっています。

現在この象の親子も、病院のスタッフたちと一緒に西区へ引越しする計画を進めています。新病院に行っても、来院される患者さんや地域の方々に「命の大切さと愛」を伝えるマスコットとして活躍してくれるでしょう。

市立堺病院における脳神経外科の最新医療をご紹介

最先端医療設備の導入や専門医の加入など、ますます充実する堺病院脳神経外科。今回は病棟で日々患者さんに向き合うスタッフの皆さまに、語っていただきました。

堺市において、高度な最新治療に対応

中島　脳卒中や脳腫瘍などの脳神経外科疾患は部位や重症度にもよりますが、日常生活を送っていく上で重大な機能障害を引き起こすことがあります。適切で迅速な診断、病状評価に基づいて一人一人の患者さんの病状にあった低侵襲で有効な治療を選択することが重要です。

私は平成21年に当院に赴任しましたが、最新の医療レベルにあった本格的な脳神経外科専門診療を心がけています。当科では医療機器の導入など医療環境の整備を精力的に進めており、経験豊富な専門医師、医療スタッフが協力して専門診療、外科手術を行っています。

脳神経外科部長　中島 義和

脳神経外科医長　西田 武生

脳血管内治療の専門医が在籍しています

西田　私は平成25年4月に堺病院に赴任して参りましたが、脳外科手術だけではなく脳血管内治療も専門にしています。できるだけ低侵襲で安全な手術を提供できるよう日々取り組んでおりますが、脳血管の病気に対しては開頭手術ではなく、血管の中からカテーテルで手術を行う脳血管内治療が非常に求められています。例えば、脳動脈瘤に対する手術方法は、以前は開頭手術しかありませんでしたが、現在はカテーテルを用いて脳動脈瘤の中を詰めてしまう脳血管内治療（コイル塞栓術）も治療の選択肢になります。また、頸動脈狭窄症に対する治療も以前は頸部を切開して行う手術しかありませんでしたが、現在はバルーンやステントを用いて血管を拡張させる脳血管内治療も選択できます。現時点で「脳血管内治療専門医」は全国で800名余であり、まだ社会のニーズに応えきれていない状態です。その中で当院には専門医が在籍しておりますので、脳血管内治療のことを、地域の方々にもっと知ってもらい、低侵襲な治療を受けていただきたいと思います。

専門医を目指す若い医師も活躍しています

横田　私はこれまで、脳神経外科専門医資格取得のため、大阪大学をはじめ府内のさまざまな施設で研修をしてきました。今年度から堺病院に赴任していますが、堺病院は他施設と比較しても非常に充実した医療を提供していると感じました。最新の手術顕微鏡やナビゲーションシステムが導入されており、種々の電気生理学的モニター、術中蛍光観察が可能です。脳腫瘍の中でも数の多い神経膠腫については、術後の放射線・化学療法、脳内留置用抗腫瘍薬ギリアデル、分子標的薬アバスチンの投与など一連の治療を全て行う事ができます。もちろん設備の充実だけでなく、治療をする医師をはじめ医療スタッフについても非常に充実していると強く感じています。

脳神経の領域は非常にさまざまな症状、病気があるためしばしば「よくわからない」と言われます。私は、患者さんやご家族の「わからない」から発生する不安や緊張を少しでも取り除けるよう、「わかりやすい説明」をモットーにしております。脳神経関連の疾患についてはぜひお気軽に質問して頂きたいと思います。

初期研修医も頑張っています

福田　私は現在堺病院で2年目の初期研修をしています。当院では2年間の内、6ヶ月の選択期間があり、私は2ヶ月間脳神経外科を選択しました。当院の脳神経外科では最新の設備が整った環境の中で、顕微鏡手術や血管内治療など幅広い治療が行われています。また高い専門性を持った魅力的な先生方からと

■ナビゲーションシステム

手術侵襲を最低限にするために脳や頭蓋骨、血管などの位置情報をリアルタイムでナビゲーションするシステム。手術の際、顕微鏡を覗きながら手術中の映像とMRIなどの画像情報を同時に確認できる。

■手術用顕微鏡 OPMI PENTERO 900

顕微鏡機能に高解像度な録画機能を追加し、情報の保管も容易。鮮明なカメラ機能により、以前は確認しきれなかった腫瘍の広がりも明確に捉え、より合理的で、正確な手術が可能。特殊フィルターにより2波長の蛍光観察が可能であり、手術中に脳血管の血流動態変化の観察が可能となり、悪性神経膠腫の局在を可視化できる。脳血管の観察にはインドシアニングリーン(ICG)、腫瘍観察には5-アミノレブリン酸(5-ALA)が用いられる。

診療局研修医
福田 竜丸

地域医療連携室
医療相談員
佐谷 健

7A病棟薬剤師
那波 みゆき

リハビリテーション技術科主査
作業療法士
藤原 光樹

7A病棟看護副師長
脳卒中リハビリテーション
看護認定看護師
竹野 道子

脳神経外科医師
横田 千里

ドクター・インタビュー

ても熱心なご指導を受ける事ができ、研修期間中に脳神経外科の魅力に引き込まれていきました。学生の頃は脳神経外科に進むと考えたことはなかったのですが、当院での研修を経て、脳神経外科医を志す決意をしました。脳神経外科は自分にとって敷居が高い印象があり、実際そのように感じている学生も多いかと思いますが、一度研修でローテートしてみるとその印象も変わるかもしれません。当院はその他の初期研修プログラムも非常に充実しているので、当院で初期研修を受け、その中で脳神経外科も是非ローテートしてみてもらいたいです。

充実したチーム医療を進めています

中島　脳疾患を有する患者さんでは、入院当初より疾患の時期ごとに患者さん一人一人にあった適切な看護、サポートが大切です。医師、病棟・専門看護師、病棟薬剤師、リハビリテーションスタッフ、医療相談員などの専門スタッフが集まり、入院後早期よりカンファレンスを行っています。医療スタッフが連携して入院加療、専門治療をサポートしていきますので、より安心感を持って治療を受けて頂くことができます。

脳卒中急性期は専門看護師で早期対応

竹野　私は脳脊髄神経センターの看護師として脳血管疾患看護にやりがいを感じ、認定看護師の資格を取得しました。当院では脳卒中急性期の患者さんが多く入院されます。脳卒中治療は時間との勝負と言えますが、専門的な知識を持った看護師が観察することによって、患者さんのわずかな変化に気付き早期に対応することが可能です。

急性期の治療を終えた患者さんは地域の病院や自宅へ退院されることになりますので、早期から社会復帰を目指した退院支援が必要です。もし、後遺症が残ったとしてもよりその人らしく生活できるよう、できる限り入院早期から「座る」「トイレに行く」などの日常生活動作を始めるよう心がけています。また、退院後の生活指導なども行い再発予防に努めています。

専門家による効率的で的確なリハビリテーション

藤原　私は作業療法士として、脳血管疾患の早期リハビリテーションに携わっています。当院のリハビリテーションは理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が在籍しており、手術を受けられた患者さんに対しては手術翌日より医師の指示を受けて、リハビリテーションを行っています。またできる限り患者さんが元の生活に戻れるように、リハビリテーションは療法士のみならず、医師や病棟看護師、医療相談員と情報を共有しながらチームアプローチで進めています。なお、当院は急性期病院であるために、長期のリハビリテーションが必要な場合は、他院での継続的なリハビリテーションがしっかり行えるように、体力の低下や関節の拘縮、痛みなどの合併症を引き起こさないよう配慮しながら進めています。

お薬の処方は、患者さんと向き合って

那波　私は薬剤師として、脳神経外科を担当しています。脳卒中などの治療に近年認められ始めた最新の薬も、ただ新しいから、という理由ではなく、患者さん一人一人の症状に合わせ、飲むタイミングや、休む日数等を正確に判断し、一番安全に提供できるシステムを構築しています。患者さんが不安を抱く副作用についても、「総合病院内の、脳神経外科病棟に在籍する薬剤師」が薬の処方を担当できるため、病状や処方後の変化に対し、より細やかなケアが可能です。さらに、治療や手術を担当した医師との連携がスムーズな点が、総合病院ならではの長所です。

カンファレンスの様子

脳血管内治療の様子

ナビゲーションシステムや手術用顕微鏡で低侵襲な開頭手術を行ってます。またカテーテルで手術を行う脳血管内治療も積極的に施行しています。

入院のご相談からリハビリまで、総合病院ならで はの安心感。

心配ごとや相談ごとは、医療相談員にお任せ！

佐谷　私は医療相談員として、入院前から入院中、そして退院後まで、患者さんが、本人らしい健やかな生活を送れるように、生活面や金銭面、精神面等の相談および、地域で利用できる社会資源の調整などをおこなっています。

脳血管疾患は、発症から退院後まで継続したフォローが必須です。そのため、疾患の詳細やリハビリ状況、服用している薬等の情報を細かく確認しながら、患者さん一人一人の立場に立って、総合的な支援が出来るよう努めています。たとえ同じ疾患であったとしても、患者さんによって家族構成や年齢、生活環境は様々です。できるだけ早く安心して元の生活に戻っていただけるよう、個々のニーズに合わせて支援させていただいています。

患者さんにとっての、心身はもちろん社会的な負担を軽減し、希望が持てる生活を送っていただくための手助けをさせていただけることに、やり甲斐を感じています。

地域の総合病院として人に優しい医療現場へ

中島　「堺市内にある中核的な総合病院」の診療科として、多面的で高度な最新医療技術と、患者さんの立場に立った人に優しい医療を追求しています。現在、西区家原寺町への移転計画を進めており、平成27年7月に救命救急センター機能を有した（仮称）堺市立総合医療センターとして開院します。脳神経外科も今後さらに充実した体制に発展させ、救急診療などの面でさらに幅広く対応していきたいと考えています。

また、患者さんが地域で継続性のある適切な医療を受けられるように、地域の医療機関と円滑な連携を図り、医療の機能分担や専門化を推進しています。地域に根ざした温もりのある医療体制も大きな魅力となるでしょう。

「かかりつけ医」を持ちましょう

かかりつけ医とは、あなたの健康状態をよく知っていて、気軽に何でも相談にのってくれるホームドクターのことです。

当院はこうしたかかりつけ医の先生と協力し、登録医制度を推進しています。普段はかかりつけ医で、待ち時間も少なくゆとりを持った診察を受けていただき、専門的な検査や治療が必要な場合は当院に紹介していただくというものです。その時はかかりつけ医の紹介状をお持ちください。当院とかかりつけ医の役割分担についてご理解いただくとともに、日頃から健康のことを相談できるかかりつけ医を持つようにしましょう。

かかりつけ医を持つメリット

- 気軽に何でも相談できます。
- 待ち時間も少なくゆとりを持った診察を受けることができます。
- 必要な時は、専門医療機関を紹介してもらえます。

紹介状を持参するメリット

- 今までの治療経過を活かした診察ができます。
- 診療の予約ができます。
- 検査だけ当院で受けて帰っていただき結果はかかりつけ医から聞くことができます。
- 保険外併用療養費（2700円）がかかりません。

当院と連携している登録医の先生をご紹介します。

西区上野芝町 さかぐちクリニック 坂口 一朗 先生

■当院の特長

当院は主に脳卒中や心卒中、動脈硬化等の血管障害の予防医療を行っています。また、メタボリックシンドロームや糖尿病等の生活習慣病の相談も多いです。当院はMRI、CT等の高度な医療機器を導入しているので、疾患を発見後すぐ堺病院と連携し、最適な治療を受けられるサポートが可能です。さらに堺病院から、リハビリ後や退院後の患者さんの逆紹介も受け付けるので、安心して治療を続けられます。

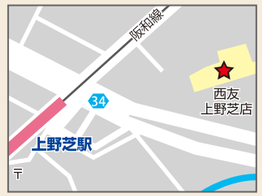
■私の診察モットー

病気の早期発見、早期治療に最も力を注いでいます。アクセスしやすい地域のクリニックでじっくり患者さんの話を伺い、従来の問診や聴診では発見できなかった疾患をいち早く治療することが、当院の願いです。

■地域の皆様へのメッセージ

頭痛や手足のしびれなど、日常で見逃しがちな体調不良に、隠れた病気のサインがあります。日々の診察の中で、それを探し出すのがかかりつけ医の役割です。また、堺病院を退院後の患者さんや、通院中の方も継続してサポートするため、リハビリ機器も充実させました。少しでも体に違和感を感じたら、ぜひご相談に来てください。

院内に設置されたMRI



堺市西区上野芝町2-7-3
西友楽市上野芝2階
★JR阪和線「上野芝駅」から徒歩5分

☎072-242-1114
http://www.sakaguchi-med.net
診療科目／内科、脳神経外科

診療受付時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:30〜12:30	○	○	●	○	○	○	×
検査 14:00〜16:00	○	○	×	×	○	○	×
午後 16:00〜19:30	○	○	×	▲	○	■	×

●訪問診療　▲17:00〜19:00　■16:00〜17:30
休診日／水曜・日曜・祝日（水曜日は訪問診療のみ）

堺区中之町 高安内科・循環器科クリニック 高安 健 先生

高安先生が趣味で描かれた絵も院内に飾られています。

■当院の特長

当院は総合的な内科として、働き盛りの方からお年寄りまで幅広い年齢層の方が来ます。また、重い疾患を持つ方や、超高齢者で通院困難な方への訪問診療に力を注いでおり、患者さんに合わせて2〜4週間ごと往診しています。一人一人の家族構成や生活環境を知り、病状に合わせ、堺病院や周囲の病院、地域のケアマネージャー等と連携し、最適なケアを受けられる体制を心がけています。

■私の診察モットー

窓口を広く持ち、総合病院に劣らないレベルの診察を心がけています。25年間、堺病院で勤務し、幅広い疾患の治療に携わった経験から、どんな病気か見極め、最適な医療機関へスムーズに紹介できます。開業医だからこそ患者さんと密に向き合い、訪問看護師やヘルパーとのチームワークも重視して多方面から速やかな判断を目指しています。

■地域の皆様へのメッセージ

患者さんと社会、病院をつなぐ橋渡しの役割を担えるよう、目指しています。待合室にもゆったりとスペースを設け、心にゆとりを持って診察をうけられる環境作りも意識しているので、少しでも体調に疑問を持ったら、まずは相談に来てください。

待合室は明るくゆったりしたスペースです。

堺市堺区中之町西1丁1-10 堀ビル1F
★阪堺電車宿院駅より南へ、
または寺地町駅より北へ徒歩5分

☎072-229-5517
http://www.myclinic.ne.jp/takayasu/pc/
診療科目／内科、循環器科

診療受付時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00〜12:00	○	○	○	／	○	○	／
15:30〜17:30	／	／	○	／	○	／	／

市立堺病院が「地域がん診療連携拠点病院」に指定されました。

がん診療連携拠点病院は、全国どこでも質の高いがん医療を提供することができるよう、厚生労働省が一定の要件を満たすとして指定した病院で

①専門的ながん医療の提供
②地域のがん診療の連携協力体制の構築
③がん患者に対する相談支援及び情報提供

などの役割が与えられています。

今回の指定により全国で356か所となり、堺市二次医療圏において市立堺病院は大阪労災病院に次いで2か所目の指定となります。